令和６年度　学校教育目標について

１　学校教育目標実現への取り組み

校内研修テーマである「自尊感情を高めて意欲的に活動する子をめざそう」に基づいて授業改善等を行うなど、全教職員がすべての児童に指導の系統性を保持し、実践していくことで「チーム庭小」のチーム力（学校力）を向上させる。

そのうえで、次の重点３項目について、それぞれの観点について重点的に取り組み、学校経営理念「子どもたちの笑顔があふれる学校」を創造していくことを通して学校教育目標「郷土を愛し、未来と世界へ羽ばたく人の育成」の実現につなげる。

２　重点３項目

《　重点項目１　命を守る　》

○健康・体力づくりの充実

「早寝」「早起き」「朝ごはん」等の規則正しい生活習慣の徹底について、児童のみならず積極的に機会をとらえて家庭にも働きかける。

また、マラソン月間等の体育的行事等を通じて、計画的に児童の体力向上に向け取り組む。

○安全・安心な環境づくり

学習活動にふさわしい環境づくり、施設設備の保全管理に努める。また、事故の未然防止の観点から、遊具等の定期的な点検を行い、必要に応じて速やかに修繕等を行う。

○防災教育の充実

災害における児童の安全の確保が図れるよう、防災体制を充実する。また、教職員が防災教育の研修に参加し、児童が自らの身を守る力を育むとともに、人を思いやり行動できる力を育めるよう防災教育を推進する。更に、保護者引き渡し訓練を実施し、保護者の防災意識向上を促す。

○食育の推進

食に関する指導を、教育活動全体を通して組織的・計画的に取り組み、家庭・地域と連携し食に対する関心・理解を深め、健全な食習慣を育成する。また、給食指導においては、マスク着用・手洗いの徹底など衛生管理意識を高める。食材に対するアレルギー情報及びアレルギー症状発症時の対処法については、全教職員でアレルギー研修等を通じて共通理解する。

《　重点項目２　心を育てる　》

○人権教育の推進

様々な人権問題を正しく把握し、差別に対する科学的認識を深め、「差別をしない」「差別を許さない」人間の育成に努めるとともに、豊かな人間関係づくりを目指して人権教育を推進する。

その際、人とのつながりの中で自分を大切にし、仲間を大切にする児童を育てる。

○道徳教育の充実

「特別な教科　道徳」の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行う。また、「特別な教科　道徳」にあっては、年間指導計画に基づき、指導内容項目に偏りが生じないようにする。指導案の蓄積や相互授業参観等を通じて、指導力向上に努める。

○支援教育の充実

人間の尊厳と無限の可能性を信じ、全教職員の協同指導体制を確立し、保護者の願いを十分に認識した上での、個に応じた支援教育の充実に努める。

また、支援学級在籍児童及び通級による指導を受けている児童については、一人ひとりの障がいの状況に応じた教育課程の充実に努める。また、通常の学級においても、個別に配慮を要する児童について実態把握を行い、特別支援教育支援員などの協力を得ながら、適切な指導を行う。

○生活指導の充実

児童が自己の存在感を実感しながら、仲間とよりよい人間関係を育て、充実した学校生活を送るよう、日ごろから全教職員で児童理解に努める。

また、いかなる時にも教職員が児童の苦しみや悩みを真摯に受け止めることで、教職員と児童との深い信頼関係を構築し、その関係を基盤として、日常的に積極的な生活指導を行う。

あわせて、不登校児童を出さない、また、減少に向け、全教職員が協力して取り組む。

○キャリア教育の充実

「キャリアパスポート」の有効活用を促進し、児童が自らの学びのプロセスやキャリア形成を見通し、振り返ることができるようにするとともに、教職員が対話的に関わり、児童１人ひとりの目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげる。

《　重点項目３　学力を伸ばす　》

○授業改善の推進

誰一人取り残さず、全ての児童の確かな学びを保障するため、「学力向上プラン」に基づいて、指導法の工夫改善に取り組む。

すべての児童が積極的、能動的に学習課題に取り組めるよう、ユニバーサルデザインの視点をもって授業づくりを行う。また、児童が互いに学びあう授業を行うことにより、確かな学力の定着を図る。

○確かな学力の向上

１人ひとりの学習の課題を明確にするとともに、学習することの喜びを実感させ、自ら学ぶ意欲と確かな学力の定着を図り、「生きる力」を養う。その際、教材研究に創意工夫を図るとともに、授業研究・校内研修等を意図的・計画的に実施する。

また、３年生から６年生においての算数科少人数授業によるきめ細かい指導等、他教科においても多様な指導方法の工夫改善を図るとともに、中学校との連携において、義務教育９年間を見通した指導を行う。

○自学自習力の育成

授業内容と連携した家庭学習課題（宿題）に取り組むことで、基礎基本の定着を図る。自主学習ノート等を活用して、児童が主体的に設定した学習課題に向き合う習慣の定着につなげる。

さらに、基礎学力向上等の取組みとして、「放課後学習」を実施し、個別の学習課題について自学自習力をつけるために全教員で支援する。また、学校図書館司書や学校支援ボランティア等と連携し、図書室の環境整備を推進するとともに、図書室開放を計画的に行い読書活動の充実をより一層図る。

１人１台端末等のＩＣＴ機器を効果的に活用し、児童個別の課題に応じた自学学習を確立する。

○自己肯定感や自己有用感を高めあえる学習集団づくり

学級は、児童にとって学校生活の基盤となり、授業はもとよりあらゆる教育活動をより効果的に行うためにも、学級担任を中心に有機的かつ機能的な学級運営をめざす。

また、クラス相互の連携を図り、学年における児童の自主的・自発的・自治的な活動の育成を積極的に図る。合わせて、異学年（ＮＨＫ班）活動を通して、自主性と豊かな社会性を養い個性の伸長を図る。

３　開かれた学校・校区連携

学校の教育力を高めるためには、家庭・地域・関係諸機関との連携が不可欠であり、ＰＴＡ活動への協力、学校生活の公開参観、外部人材の活用、学校教育評価の実施など、「開かれた学校づくり」をめざし、「学校運営協議会」を通して、地域コミュニティづくりに努める。

あわせて、学校だよりや学年だより等を通じて、学校教育活動の周知を行う。また、学校支援地域本部の活動を通して、学校・家庭・地域・関係諸機関が一体となって子どもの育成を図る。

中学校区の児童・生徒との交流の機会を積極的に作るとともに、中学校区教職員の連携を行い、義務教育９年間を見通した指導に努める。庭窪中校区小中連携のスローガン「自ら考え行動し　人とつながり　地域を大切にする子」をもとに、小中間、小小間、の連携を一層深める。